


# 平成8年度工業標準分野 プロジェクト連携促進事業報告書

平成9年3月

JICA LIBRARY  
  
J 1139230(5)

国際協力事業団

|      |
|------|
| 鉾開計  |
| JR   |
| 97-9 |

LIBRARY



## 序

国際協力事業団は、「人造り・国造り・心のふれあい」をスローガンに開発途上国に対して、様々な分野で技術協力事業を実施しております。

そのなかで特にASEAN諸国をはじめとする開発途上国では近年の工業化の進展に対応し、工業標準や計量標準、工業所有権、生産性向上など産業高度化のための基盤整備にかかる人材育成プロジェクトが増加しております。

一方、WTO及びAPECに代表される国際的動きの中では、更なる貿易・投資の自由化・円滑化のため、工業標準及び工業所有権といった分野の制度整備が求められており、同分野の人材育成はASEAN諸国にとって重要課題となっております。

このような状況下、現在実施中、若しくは過去実施したプロジェクト方式技術協力の活用を図り、ASEAN諸国をはじめとする各国関係機関との間で共通の課題を議論するとともに、関係機関の連携を深めていくことは人材育成の観点からも有意義との認識のもと、本年度より「プロジェクト連携促進事業」を開始することになりました。

本年度は、その対象をまず「工業標準」の分野とし、昨年6月の連携促進調査団の派遣を初め、昨年7月1日～4日に第1回セミナーをフィリピンで、10月16日～18日に第2回セミナーをタイで実施致しました。また3月6日及び7日にはシンガポールにて第3回セミナーを開催し、参加国の間で工業標準制度全般に関する情報交換や、特にその中でも電気製品の強制法規、規格、試験所に関する情報の交換・共有化が図られるなど具体的実施効果が生まれつつあります。

今回、本年度事業の締めくくりとして、平成8年度プロジェクト連携促進事業報告書を刊行する運びとなりました。この報告書を通じて本事業に対する関係皆様の御理解が一層深まることを期待するとともに、今後とも本事業に対し幅広い分野での御協力を賜われますようお願い致します。

1997年3月



国際協力事業団  
理 事  
大 角 恒 生



## LIST OF ABBREVIATIONS

**ACCSQ:** ASEAN Consultative Committee for Standards and Quality  
**AFTA:** ASEAN Free Trade Area  
**AIST:** Agency of Industrial Science and Technology  
**APEC:** Asia-Pacific Economic Cooperation  
**APEC-SCSC:** APEC Sub Committee on Standards and Conformance  
**APLAC:** Asia Pacific Laboratory Accreditation Cooperation  
**APLMF:** Asia Pacific Legal Metrology Forum  
**APMP:** Asia Pacific Metrology Programme  
**ARQS:** Quality System Audit and Registration System  
**ASEAN:** Association of South-East Asian Nations

**BOC:** Bureau of Customs  
**BPS:** Bureau of Product Standards  
**BPSTC:** BPS Testing Center  
**BS:** British Standards

**CAC:** Codex Alimentarius Commission  
**CASCO:** Committee on Conformity Assessment  
**CEO:** Chief Executive Officer  
**CEPT:** Commodity Extra Preferential Treatment  
**CER:** Closer Economic Relation  
**COPOLCO:** Committee on Consumer Policy  
**CSA:** Canadian Standards Association  
**CTI:** Committee on Trade and Investment

**DB:** Database  
**DEVCO:** Committee on Developing Country Matters  
**DOF:** Department of Finance  
**DOST:** Department of Science and Technology  
**DSN:** Standardization Council of Indonesia  
**DTI:** Department of Trade and Industry

**EAN:** European Article Number  
**EN:** European Standards  
**EMC:** Electro-Magnetic Compatibility  
**EU:** European Union

**FAO:** Food and Agriculture Organization of the United Nations  
**FCC:** Federal Communications Commission

**GATT:** General Agreement on Tariffs and Trade  
**GOST:** USSR State Standards

**IAF:** International Accreditation Forum  
**IAP:** Itemized Action Plans  
**IATCA:** International Auditor Training and Certification Association  
**ICC:** Import Commodity Clearance  
**IEC:** International Electrotechnical Commission  
**ILAC:** International Laboratory Accreditation Conference  
**IPSC:** Industrial Products Standards Council  
**ISO:** International Organization for Standardization  
**ISQAP:** Industrial Standards and Quality Assurance  
**ISTTC:** Industrial Standardization Testing and Training Center  
**ITDI:** Industrial Technology Development Institute

**JAS:** Japan Agricultural Standard

**JET: Japan Electrical Testing Laboratory**  
**JICA: Japan International Cooperation Agency**  
**JIS: Japanese Industrial Standards**  
**JQA: Japan Quality Assurance Organization**  
**JSA: Japanese Standards Association**

**KAIT: Technical Institution Committee for Accreditation**  
**KAI-TECK: Korean Academy of Industrial Technology**  
**KAN: Accreditation Body of Indonesia**

**LAN: Local Area Network**  
**LIPI: Institute for Standardization**

**MITI: Ministry of International Trade and Industry**  
**MOI: Ministry of Industry**  
**MOIT: Ministry of Industry and Trade**  
**MOSTE: Ministry of Science, Technology and Environment**  
**MOU: Minutes of Understanding**  
**MRA: Mutual Recognition Agreement**  
**MS: Malaysian Standards**

**NAFTA: North American Free Trade Area**  
**NAMAS: National Measurement Accreditation Service**  
**NSB: National Standards Body**  
**NSTL: National Standards and Testing Laboratory**  
**NZ: New Zealand**

**OIML: International Organization of Legal Metrology**

**PAC: Pacific Accreditation Cooperation**  
**PASC: Pacific Area Standards Congress**  
**PFP: Partners for Progress**  
**PL: Product Liability**  
**PNS: Philippine National Standards**  
**PS: Philippine Standards**  
**PSB: Singapore Productivity and Standards Board**  
**PTTC: Philippine Trade and Training Center**  
**PUB: Public Utilities Board of Singapore**  
**PUSTAN: Center for Industrial Standardization**  
**PVC: Polyvinyl Chloride**

**QS: Quality System**  
**QSCB: Quality System Certification Bodies**  
**QUACERT: STAMEQ Certification Body ( Schemes )**

**R & D: Research and Development**

**SC: Sub Committee**  
**SIRIM: Standards and Industrial Institute of Malaysia**  
**SNI: Indonesia National Standards**  
**SOM: Second High-Working Level Meeting of APEC**  
**SS: Singapore Standards**  
**STAMEQ: Directorate for Standards and Quality**

**TBT: Technical Barriers on Trade**  
**TC: Technical Committee**  
**TCVN: National Standards of Vietnam**  
**TIS: Thai Industrial Standards**

**TISI: Thai Industrial Standards Institute**  
**TISI T/C: TISI Testing Center**  
**TMB: Technical Management Board**  
**TQM: Total Quality Management**  
**TUV PS: Technischer Überwachungs Verein e. V. Product Service**  
**TWG: Technical Working Group**

**UKAS: United Kingdom Accreditation Service**

**VCR: Video Cassette Recorder**  
**VDE: Verband Deutscher Elektrotechniker**  
**VMI: Vietnam Metrology Institute**  
**VSC: Vietnam Standards Center**  
**VSI: Vietnam Standards Institute**

**WG: Working Group**  
**WHO: World Health Organization**  
**WTO: World Trade Organization**





平成8年度プロジェクト連携促進事業報告書

目次

頁

第1部 総論

|                                     |      |
|-------------------------------------|------|
| 第1章 工業標準分野プロジェクト連携促進事業の概要           | 1-1  |
| 1-1. 事業創設の背景                        | 1-1  |
| 1-2. 事業の特徴                          | 1-1  |
| 1-3. 本事業の果たす役割                      | 1-2  |
| 1-4. 事業を構成する各活動                     | 1-3  |
| 1-5. 本年度事業実績                        | 1-6  |
| 1-6. 事業の今後の実施方針                     | 1-44 |
| 第2章 工業標準分野における国際化の動向                | 2-1  |
| 2-1. WTO/TBT協定                      | 2-1  |
| 2-2. APEC                           | 2-3  |
| 第3章 ASEANにおける工業標準化の動向               | 3-1  |
| 3-1. 背景                             | 3-1  |
| 3-2. ACCSQの活動                       | 3-1  |
| 3-3. ACCSQのTechnical Working Groups | 3-2  |
| 3-4. 国際及び地域関係                       | 3-3  |

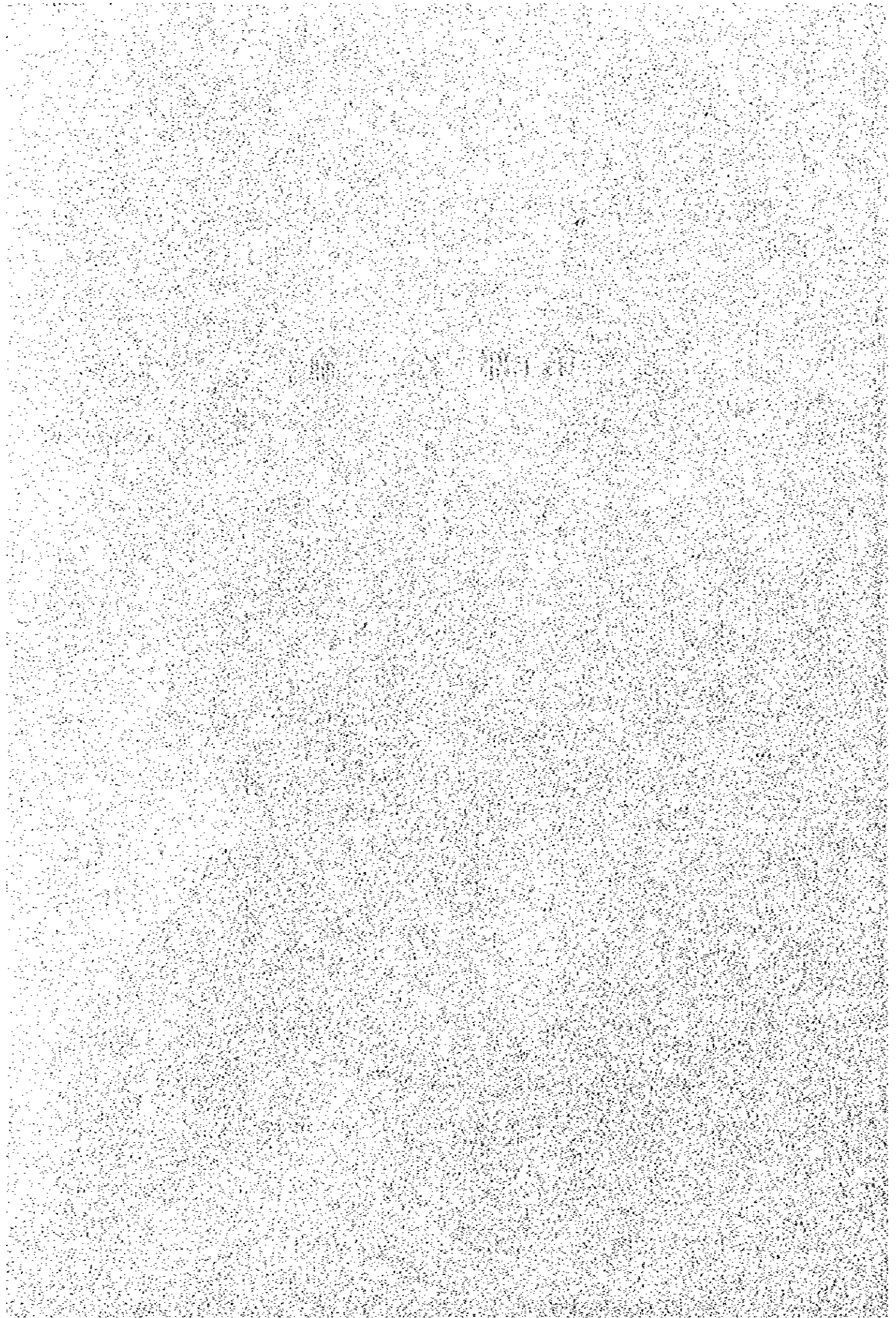
第2部 各論

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 第1章 各国の工業標準・基準認証制度及びその現状 | A1-1  |
| 1-1. インドネシア              | A1-2  |
| 1-2. マレーシア               | A1-24 |
| 1-3. フィリピン               | A1-47 |
| 1-4. シンガポール              | A1-62 |
| 1-5. タイ                  | A1-77 |
| 1-6. ヴィエトナム              | A1-93 |

第2章 各国の標準化に関するデータベース、インターネット・

|                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| ホームページの現状                | ・ ・ ・ ・ ・ A 2 - 1 |
| 2 - 1. データベースの現状         | ・ ・ ・ ・ ・ A 2 - 1 |
| 2 - 2. インターネット・ホームページの現状 | ・ ・ ・ ・ ・ A 2 - 1 |

# 第1部 総論



## 第1部 総論

### 第1章 工業標準分野プロジェクト連携促進事業の概要

#### 1-1. 事業創設の背景

A S E A N及び一部周辺国においては急速な工業化の進展、産業の国際的な分業化、貿易・投資の拡大及び自由化にかかる活発な動きなど経済環境が著しく変化しており、国際協力事業団はこのような状況の変化に適切に対応するため、プロジェクト方式技術協力の活用によりそれぞれの国内における産業高度化のための基盤整備を目的とする工業標準等にかかる人材育成プロジェクトを従来より実施してきている。

一方、W T O及びA P E Cに代表される国際的動きの中では、更なる貿易・投資の自由化・円滑化のため、工業標準等の分野の制度整備が求められており、同分野の人材育成はアセアン諸国にとって緊急課題となっている。

このような背景のもと、国際協力事業団は実施中又はこれまでに協力したプロジェクト方式技術協力の活用を図り、これを核としてA S E A N諸国等の関係機関の連携を促進することによりA P E Cで目的とされている貿易・投資の自由化・円滑化等への体制整備を行うため「工業標準分野プロジェクト連携促進事業」を開始した。具体的には、今後4～5年をかけ工業標準関係プロジェクトを活用し、人的交流によるネットワークの構築と関係機関相互の情報の交換・共有化を図る協力を実施する予定となっている。

また、本事業は、我が国がA P E C（アジア太平洋経済協力）において推進するP F P（前進のためのパートナー）に資する協力として位置付けられる。

#### 1-2. 事業の特徴

##### (1) 地域間協力

プロジェクト方式技術協力事業は二国間の協力を基本としているが、本事業はA S E A N及びその周辺国を対象に、特定の分野において継続的に協力をを行う相互協力事業の性格を有するものである。また、開発途上国において事業を実施することから、南南協力支援としての性格も合わせ持つ協力であ

る。

## (2) 参加各国による事業の実施

工業標準分野において地域の連携を図り、我が国がイニシアティブをとりつつ本事業参加国との協調的な協力を実施する。そのため、本事業はプロジェクト方式技術協力のような垂直的な技術移転というより、参加各国が水平的な責任分担のもとに事業の計画作成・実施を行うこととなる。

## (3) 情報共有化と人的交流

A S E A N 諸国を中心とする関係機関の連携を図るため、本邦及び関係国からの人材を招聘しセミナーを開催、参加国間の『情報共有化』と『人的交流』の促進を図るものである。

## (4) 移転技術の応用発展

本事業は、協力実施中又は協力終了後のプロジェクトを活用して協力を実施することから、プロジェクトにとって移転技術の応用・発展のための協力として位置付けられる。

### 1-3. 本事業の果たす役割

工業標準分野プロジェクト連携促進事業は、実施中又はこれまで実施した当該分野のプロジェクト方式技術協力の活用を図り、これを核として人的交流によるネットワークの構築とA S E A N 諸国等関係機関相互の情報の交換・共有化を図ることを目的として実施される。

このため事業を実施していく過程では、以下の効果が期待される。

#### (1) 国際協力事業団が実施中またはこれまで実施した当該分野のプロジェクト方式技術協力で得られた経験及び情報を周辺のA S E A N 諸国等に伝播することにより域内の人材育成が図られる。

またこの事業において各プロジェクトに共通する課題を議論していくことは、既存のプロジェクトの活動の方向性を確定するうえで非常に役立つとと

もに、今後新たなプロジェクトの立ち上げにおいても参考となりうる。

(2) WTO及びAPECに代表される国際的な動きの中で、関係国に対しては工業標準分野の制度整備が国際的合意に基づき進められるとともに、域内協力と国際機関における活動との連携を更に強化することが求められている。

このような状況下、当該分野における人材育成は、ASEAN諸国にとって重要課題となっており、本事業の実施により域内の情報の共有化を促進するとともに人材育成に貢献することは、このような国際活動を間接的に支援することにもつながる。

#### 1-4. 事業を構成する主な活動

連携促進事業を構成する主な活動及びその具体的内容は次のとおり。

##### (1) 連携促進委員会

連携促進委員会は、ASEAN諸国等の関係機関とのネットワークの構築を目的とし、基本計画策定、連携セミナーの開催、技術情報ネットワークの整備等の事業の実施に当たりJICAを補佐する。

##### (2) 連携促進調査団の派遣

連携促進調査団は、連携促進委員会の提言を基にJICAが作成した事業実施方針をもって、ASEAN諸国の関係機関に対し連携促進事業の実施を提案（オファー）し、共同して事業を実施することの同意を取り付けるとともに、連携セミナーの開催に関するASEAN諸国等の要望を取り纏める。

##### (3) 連携技術調査員の派遣

連携促進調査員は、セミナー開催国のプロジェクトにおいて①連携セミナーの円滑な開催のための日本及び開催国との調整、②技術情報収集のための調査を実施する。これにより、日本がイニシアティブをとり、かつ協調的に事業の実施を行うことを確保するものである。

(4) 連携セミナーの開催

①開催地：JICAがこれまでに実施、もしくは現在実施中の工業標準関連プロジェクト

②参加招聘者等：ASEAN諸国等の工業標準関係者及び政府関係機関の者  
(注) 先進国からの参加者は、自己負担。

③開催の概要(参考例)：

- a) 参加招聘者及び本邦からの講師の講演・発表等
- b) 試験検査等のデモンストレーション
- c) プロジェクトサイトでの実習
- d) 技術情報の共有化の促進

④連携セミナー開催のテーマ

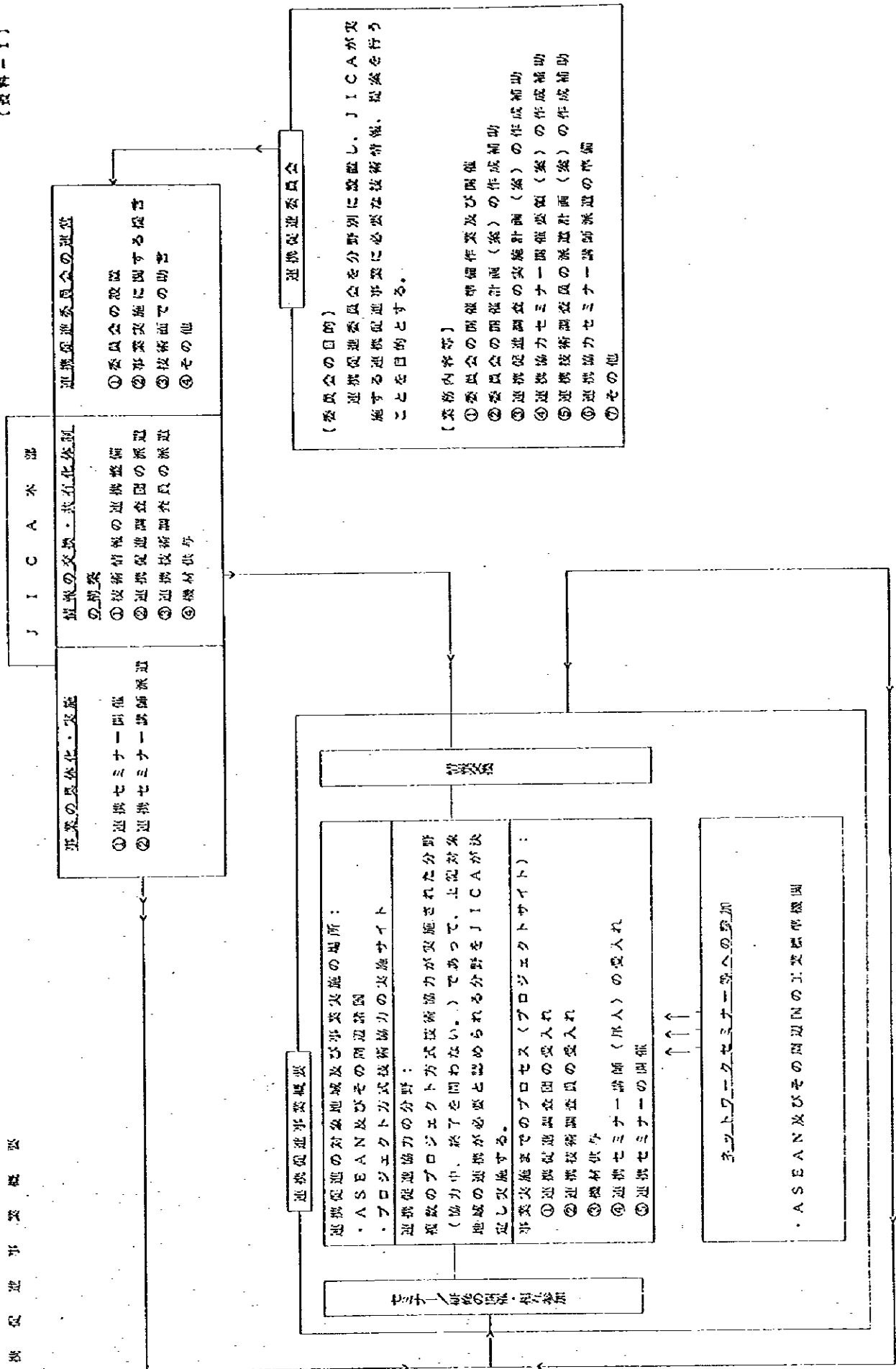
当面電気試験分野を対象とする。

⑤開催期間：3日間程度

⑥セミナー開催関係者

- a) JICA在外事務所
- b) 開催国の政府又はその関係機関(プロジェクト実施機関)





## 1-5. 本年度事業実績

### (1) 連携促進調査団の派遣

第1回、第2回の2回に分けて、ASEAN諸国に連携調査団を派遣し、各国の関連機関と本事業にかかる要望取り纏め及びセミナーの開催方法にかかる協議を行うとともにASEAN各国の工業標準に関する現状調査を実施した。その内容は以下のとおり。

#### ① 第1回調査

- a) 時期：平成8年6月9日～18日
- b) 調査国：マレーシア、インドネシア、シンガポール
- c) 調査団団員：表. 1-5-1参照

#### ② 第2回調査

- a) 時期：平成8年6月26日～7月11日
- b) 調査国：フィリピン、タイ
- c) 調査団団員：表. 1-5-2参照

連携セミナー等に対する、ASEAN諸国からの要望では、インドネシア、マレーシアよりセミナーの当該国での早い時期の開催を申し入れられた。又、セミナーのテーマについては、複数の国から、出来るだけ具体的かつ実質的なものであること、さらに、ACCSQの活動内容及び、ACCSQの開催するセミナーのテーマと重ならないようにとの要望が提示された。

(上記2回の調査の結果の内、ASEAN各国の工業標準、基準認証制度等の現状調査の結果については、本報告書の第2部「各論」、第1章「各国の工業標準、基準認証制度及びその現状」を参照。)

### (2) 連携セミナー及びワークショップの開催

本年度、第1回連携セミナー・ワークショップを平成8年7月1日～4日にフィリピンで、第2回を平成8年10月16日～18日にタイで、第3回を平成9年3月6日～7日にシンガポールで開催した。

(各セミナーの詳細については、添付の資料、1～3を参照。)

フィリピンにおける第1回ワークショップで、本事業のアクションプランが参加各国より提案・討議され、この流れを受けて、第2回から第3回までのワークショップに於いて各国の工業標準電気分野の規格、試験に関する内容について討議された。

シンガポールで開催された第3回ワークショップでは、工業標準電気分野の法規、規格、試験に関するASEAN各国の情報が一定のフォーマットにより交換された。又、第2回ワークショップにおいてタイより各国の電気試験所の比較試験、第3回にはシンガポールより電気試験結果の不確実性に関し、本ワークショップの議題に取り上げたらどうかといった提案があった。

さらに、第3回ワークショップにおいて、日本より国内規格と国際規格の整合化にかかるASEAN域内の協力に関する提案があった。

表. 1-5-1 第1回調査団（インドネシア、マレーシア、シンガポール）団員

| 氏名   | 担当      | 所属                          |
|------|---------|-----------------------------|
| 平井敏雄 | 団長・総括   | 国際協力事業団鉦工業開発協力部計画課長代理       |
| 坂元耕三 | 工業標準政策  | 通商産業省工業技術院標準部国際規格室工業標準専門職   |
| 梶田 明 | 工業標準制度  | 財団法人日本規格協会国際標準化協力センター調査役    |
| 浅賀栄蔵 | 工業標準化技術 | 財団法人日本規格協会国際標準化協力センター囑託・技術士 |
| 日比俊文 | 計画管理    | 国際協力事業団鉦工業開発協力部計画課          |

表. 1-5-2 第2回調査団（フィリピン、タイ）団員

| 氏名   | 担当      | 所属                          |
|------|---------|-----------------------------|
| 山下文夫 | 団長・総括   | 国際協力事業団鉦工業開発協力部計画課長代理       |
| 梶田 明 | 工業標準制度  | 財団法人日本規格協会国際標準化協力センター調査役    |
| 浅賀栄蔵 | 工業標準化技術 | 財団法人日本規格協会国際標準化協力センター囑託・技術士 |
| 高橋直樹 | 計画管理    | 国際協力事業団鉦工業開発協力部計画課          |

第1回連携セミナー・ワークショップ概要報告

1. 期間：平成8年7月1日～4日
2. 場所：フィリピン、マニラ市；PTTC (Philippine Trade Training Center)
3. プログラム：(添付1参照)
4. 参加者：
  - (1) 参加者  
マレーシア、インドネシア、ヴェトナム、タイよりセミナー講師を含む各2名、フィリピン8名、日本5名(添付2参照)
  - (2) オブザーバー  
フィリピン貿易工業省製品規格局(BPS)、科学技術省、家庭用電気製品工業界から計8名、工業標準化、電気試験技術プロジェクト専門家等
5. 概要：
  - (1) セミナー
    - ① オープニングセレモニーでは、この事業の窓口機関であるフィリピン貿易工業省のオートネス次官が自らスピーチするなどフィリピン側の真摯な取り組みが感じられた
    - ② 各国より自国の品質管理を含む基準認証制度の現状と動向、電気製品の工業規格およびその試験システム等が紹介されるとともに、活発な意見交換が行われ各国の間で情報、知識、経験の共有化が図られた。
    - ③ アセアン域内における相互認証制度の確立について話しが及び、議論が白熱するなど、各国の認識が一致している事が確認出来た。
  - (2) ワークショップ  
ワークショップにおけるアクションプランの検討では、今後とも電気試

験分野のテーマで継続すること、又、セミナーのプログラムはAPEC、ASEAN-ACCSQとの重複がなく、かつアセアン各国共通のテーマで進めるべきとの意見が多かった。（添付3参照）

# BPS-JICA SEMINAR/WORKSHOP ON INDUSTRIAL STANDARDIZATION

添付. 1-1/2

*01 July*

- 9:30-9:45 AM      **OPENING REMARKS**  
*Mr. Masami Shukonobe, JICA Philippines*
- 9:45-10:00      **KEYNOTE ADDRESS**  
*DTI Undersecretary Ernesto M. Ordoñez*
- 10:00-10:10      **BREAK**
- 10:10-11:00      **STANDARDS & CONFORMANCE NEEDS TO MEET ECONOMIC  
GLOBALIZATION/ Q & A**  
*Philippines: Mr. Renato V. Navarrete*
- 11:00-11:50      **THE PRESENT AND THE FUTURE OF STANDARDS AND CONFORMANCE  
SYSTEM IN THAILAND/Q&A**  
*Thailand: Mr. Sirichai Kunthamas*
- 11:50-1:20      **LUNCHEON**
- 1:20-2:10 PM      **LONG-TERM PLANS FOR STANDARDIZATION IN JAPAN/Q & A**  
*Japan: Mr. Seiji Oshima*
- 2:10-2:20      **BREAK**
- 2:20-3:10      **ACTIVITY REPORT FROM PHILIPPINE COMPANY ON STANDARDIZATION  
AND QUALITY MANAGEMENT / Q & A**  
*Philippines: Ms. Glo Tiongson*
- 3:10-4:00      **REPORT ON STANDARDIZATION AND QUALITY MANAGEMENT  
ACTIVITIES IN A JAPANESE COMPANY/Q&A**  
*Japan: Mr. Shinya Tsutsumi*
- 5:00-8:00      **WELCOME PARTY**

*02 July*

- 9:30-10:20 AM      **ESTABLISHMENT OF LABORATORY ACCREDITATION SCHEME  
BASED ON ISO GUIDES/Q&A**  
*Malaysia: Mr. Goh Tok Poie*
- 10:30-11:20      **STANDARDIZATION OF NATIONAL STANDARDS IN INDONESIA  
(SNI Marking, etc.)**  
*Indonesia: Mr. Baoseki, Mr. Sjarif Husen*
- 11:20-12:10      **NEW TREND OF JIS STANDARDS DEVELOPMENT~ GUIDELINES FOR  
USABILITY-DESIGN OF ELECTRIC HOME APPLIANCES**  
*Mr. Norio Ishizaki, JICA Expert*

# BPS-JICA SEMINAR/WORKSHOP ON INDUSTRIAL STANDARDIZATION

添付. 1 - 2 / 2

- 12:10 - 1:40      **LUNCHEON**
- 1:40 - 2:30      **PRESENTATION ON INSPECTION ACTIVITIES (General) of BPS/Q&A**  
*Philippines: Ms. Norma C. Hernandez*
- 2:30 - 3:30 -  
(ANNOUNCEMENT)      **QUALITY ASSURANCE SYSTEM, CERTIFICATION SYSTEM AND  
ISO 9000 SERIES IN SINGAPORE/Q&A**  
*Representative of Singapore*
- 3:30 - 4:20      **STANDARDIZATION AND QUALITY MANAGEMENT IN VIETNAM**  
*Vietnam: Mr. Nguyen Tri Long*
- 03 GALLEY*
- 10:00 AM      **VISIT TO BPS TESTING CENTER**
- 10:30 - 11:00      **ADDRESS FROM BPS/INTRODUCTION TO BPS PROJECT**  
*Mr. Josehito C. Soler*  
*Chief, BPS Testing Center*
- 11:00 - 12:00      **TOUR OF BPSTC Facilities**
- 12:00 - 1:00      **LUNCHEON**
- 2:30 - 4:00 PM      **REPORT AND CONSIDERATIONS ON STANDARDIZATION MEASURES  
RELATED TO ELECTRIC PRODUCTS (Wire & Cables, Wiring Devices and  
Luminaire)**  
*Philippines: Ms. Clarissa M. Oracion/Mr. Gerardo P. Panopio*
- 04 GALLEY*
- 9:30 - 10:45 AM      **DISCUSSION ON STANDARDIZATION ISSUES ~ CURRENT SITUATION  
AND FUTURE PLAN FOR ELECTRIC PRODUCTS (Wire & Cables, Wiring Devices  
and Luminaire) IN ASEAN COUNTRIES**
- 10:45 - 11:00      **BREAK**
- 11:00 - 11:50      **DISCUSSION ON STANDARDIZATION ISSUES ~ CURRENT SITUATION AND  
FUTURE PLAN ELECTRIC PRODUCTS (Wire & Cables, Wiring Devices and  
Luminaire)**
- 11:50 - 12:20      **Q & A / FUTURE COOPERATION ON ELECTRIC PRODUCTS (Wires and Cables,  
Wiring Devices, and Luminaires)**
- 12:20 - 1:30      **LUNCHEON**
- 1:30 - 2:20      **PREPARATION OF ACTION PLANS FOR ONE (1) YEAR**
- 2:30 - 3:30      **DISCUSSION ON ACTION PLANS**  
*Philippines*
- 3:30 - 4:00      **CLOSING REMARKS**  
*Director Jesus Motoomill, BPS*
- 7:00 - 9:00      **FAREWELL PARTY**



フィリピンセミナー・ワークショップASEAN各国の参加者 添付. 2-1/5

| COUNTRY   | NAME                    | SECTION   |
|-----------|-------------------------|---|
| Malaysia  | Mr. Goh Tok Poie        | Manager, Engineering unit, Standards and Quality Division, SIRIM  |
|           | Mr. Zakaria Mohamad Noi | Research officer, Product Certification unit, Standards and Quality Division, SIRIM   |
| Indonesia | Mr. Sjarif Husen        | DSN Secretariat, Standardization Council of Indonesia<br>DSN C/O Center for Standardization Indonesian Institute of Indonesia |
|           | Mr. Basoeki             | Director, Center for Standardization Ministry of Industry and Trade   |
| Vietnam   | Mr. Nguyen Tri Long     | Deputy General Director Directorate for Standards and Quality   |
|           | Mr. Luong Van Phan      | Head of Electronic and Electrical Section, Vietnam Standardization Institute  |
| Thailand  | Mr. Nithasn Sirilarpyos | Quality Control Sub-division, Thai Industrial Standards Institute   |
|           | Mr. Sirichai Kunthamas  | Standards Division, Thai Industrial Standards Institute   |

フィリピンセミナー・ワークショップ日本側参加者 添付. 2-2/5

| COUNTRY | NAME                | SECTION  |
|---------|---------------------|--|
| Japan   | Mr. Seiji Oshima    | Director, Mashinary Standard<br>s, Division, Standards Depar<br>tment, AIST, MITI  |
|         | Mr. Shinya Tsutsumi | Consultant, expert on<br>Quality Control   |
|         | Mr. Fumio Yamashita | Deputy Director, Planning<br>Div. Mining and Industrial<br>Development Dept., JICA |
|         | Mr. Akira Kajita    | Manager, International Stand<br>ardization Cooperation Cente<br>r, JSA             |
|         | Mr. Eizo Asaka      | Senior Technical Consultant<br>ditto, JSA  |
|         |                     |  |
|         |                     |  |
|         |                     |  |

フィリピンセミナー・ワークショップ参加者 添付. 2-3/5  
 ( BPS , etc. )

| COUNTRY     | NAME                    | SECTION   |
|-------------|-------------------------|---|
| Philippines | Mr. Jesus L. Motoomull  | Director, BPS   |
|             | Mr. Joselito C. Soler   | Project Manager,<br>BPS Testing Center, BPS           |
|             | Mr. Carlos I. Somera    | Chief, Information Services,<br>BPS                   |
|             | Ms. Clarissa M. Oracion | Chief, Standards Development<br>, BPS                 |
|             | Mr. Gerardo P. Panopio  | Assistant Project Manager,<br>BPS Testing Center, BPS |
|             | Ms. Norma C. Hernandez  | Chief, Product Certification<br>Division, BPS         |
|             | Mr. Renato V. Navarrete | Consultant, BPS<br>Former Director, BPS               |
|             | Ms. Gio Tiongson        | President,<br>Tiongson Industries, Inc.               |

フィリピンセミナー・ワークショップ参加者 添付. 2-4/5  
 JICA PROJECT TEAM

| COUNTRY     | NAME                   | SECTION             |
|-------------|------------------------|---------------------|
| Philippines | Mr. Hiroshi Yoshimitsu | Chief Advisor, JICA |
|             | Mr. Norio Ishizaki     | Expert, JICA        |
|             | Mr. Kenji Kubota       | Expert, JICA        |
|             | Mr. Kazuki Ishida      | Coordinator, JICA   |
|             |                        |                     |
|             |                        |                     |
|             |                        |                     |
|             |                        |                     |

フィリピンセミナー・ワークショップ参加者 添付. 2 - 5 / 5  
 Observers

| COUNTRY     | NAME                    | SECTION   |
|-------------|-------------------------|---|
| Philippines | Engr. Edward Mendoza    | President,<br>Institute of Integrated<br>Electrical Engineers, Inc.                     |
|             | Engr. Cayetano Ferreria | President,<br>Association of Home Appli-<br>ance Manufactures                           |
|             | Engr. Arturo Zabala     | Senior Engineer, Fules and<br>Appliance Testing Laboratory<br>Dept. of Energy           |
|             | Mr. Eduardo Juan        | Division Chief, Standards<br>and Testing Div. -ITDI, Dept.<br>of Science and Technology |
|             | Ms. Irene C. Estrada    | Special Projects Officer,<br>Philippine Appliance<br>Corporation                        |
|             | Mr. Roslyn Candelario   | Transunion Electric<br>Corporation  |
|             | Mr. Albert M. Ortega    | General Heat Corporation  |
|             | Mr. Michael Sy          | Sycwin Coating and Wire<br>Corporation  |

BPS-JICA SEMINAR WORKSHOP ON INDUSTRIAL STANDARDIZATION  
Philippine Trade Training Center  
July 1 - 4, 1996

PROPOSALS FOR ACTION PLAN

INTRODUCTION

The last day of the seminar workshop on industrial standardization organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA) and the Bureau of Product Standards (BPS) was devoted to the preparation of proposals for action plans for joint cooperation in ASEAN countries.

In line with the terms of reference for the preparation of action plans, the participants from Indonesia, Japan, Malaysia, Philippines, Thailand and Vietnam presented proposals taking into consideration the topics discussed during the first 3 days of the seminar workshop.

It was made clear that action plan and the activities therein will not duplicate but rather to compliment the activities of the Asia Pacific Economic Cooperation (APEC)-Sub Committee on Standards and Conformance (SCSC) and the programs of the ASEAN Consultative Committee for Standards and Conformance (ACCSQ).

It was also pointed out that programs and activities identified as action plans will be an ASEAN wide activity to be supported by JICA rather than bilateral assistance from JICA to participating ASEAN Countries.

The proposals will be sent to JICA and will be circulated within two weeks after the seminar workshop.

The Workshop was Chaired by BPS upon the request of JICA.

SUMMARY OF PROPOSALS

The following are the proposals from the participants of the seminar workshop:

1. Focus of the joint cooperation will initially be on mandatory standards including:

- Wires and Cables
- Wiring Devices
- Lamps and Related Appliances

The group agreed that other products can be included later.

2. Sharing/Complementation of Testing and Calibration Facilities.

3. Training/ Attachment of Personnel

- skills enhancement on specific product/product group.
- conducted in ASEAN country which has the expertise and facilities
- calibration and testing
- product certification
- assessment (laboratory, product and QS certification)

4. Exchange of Information/Copy of Standards

Exchange of information and copy of standards will initially be on mandatory standards. If necessary, translation into English will be done.

5. Development of Database

- Access thru Internet/Homepage
- Scope of Database will be decided but initially to include Electrical Products/Mandatory Standards

6. Proficiency Testing

- Items to be decided by participating countries but preferably for electrical testing/products/calibration.

7. To ensure continuity of the program and the implementation of action plans, it was strongly recommended that the same participants should attend the succeeding seminars.

8. Study of Awards Systems such as the Malcolm Baldrige Award in the USA

9. Look for proper way to involve major private enterprises about evaluation techniques.

**IMPLEMENTING MECHANISMS:**

To implement the proposals, the following implementing mechanisms were recommended. Assistance by JICA was requested for this purpose.

1. Survey of testing and calibration facilities
2. On the Job Training
3. Lecture/Seminar on Internet, Hypertext Language
4. Seminar Workshop on Specific Subjects
5. Group Training on Specific Subjects
6. Forum for Testing Activities (regular meetings)
  - Interpretation of Stanadrds
  - Implementation of Test Methods

In addition, a forum on laboratory accreditation to complement testing activities was also suggested.



工業標準化に関する BPS-JICA セミナー・ワークショップ

於 フィリピン・トレード・トレーニング・センター

1996年7月1～4日

アクションプランの提案（翻訳）

前置き

国際協力事業団（JICA）及び Bureau of Product Standards（BPS）開催の工業標準化に関するセミナー・ワークショップの最終日は、ASEAN 諸国の間で行われる Joint Promotion Programのためのアクションプランの提案作成に当てられた。

アクションプラン作成のための委任事項に沿い、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、タイ及びベトナムからの参加者が、同セミナー・ワークショップの初めの三日間で話し合われた事柄を考慮に入れて、提案を発表した。

アクションプラン及びそれに含まれる活動は、アジア太平洋経済協力会議（AP EC）－基準認証分科委員会（SCSC）、基準認証に関する ASEAN 諮問委員会（ACC SQ）の活動内容と重複するよりも、それを補足するような形にすることが明確にされた。

また、アクションプラン内のプログラム及び活動は、JICA から ASEAN 各国への（二国間の）相互支援というよりも、JICA からの支援を受けて行われる ASEAN 全体の活動となることも指摘された。

これらの提案は JICA に送付され、セミナー・ワークショップ終了後二週間以内に回付されることになっている。

本ワークショップは、JICA のリクエストにより、BPS が議長を務めた。

提案の要旨

下記に示すのが、セミナー・ワークショップ参加者による提案である。

1. 本 Joint Promotion Programの初期段階では、下記をはじめとする強制規格に焦点をおく。

- (1) ワイヤ及びケーブル
- (2) ワイヤ装置
- (3) ランプ及び関連機器

グループは、後で他の製品を加えてもよいことに合意した。

2. 試験及びキャリブレーション施設の共有／相補

3. 人員のトレーニング／アタッチメント

- (1) 特定の製品／製品グループについてのスキル向上
- (2) 専門技術及び施設を有する ASEAN 国で実施
- (3) キャリブレーション及び試験
- (4) 製品認証
- (5) アセスメント（試験所、製品、及び QS 認証）

4. 情報交換／規格の複写

情報交換及び規格の複写を行うのは、はじめは強制規格に関するものとする。必要であれば英語への翻訳も行う。

5. データベースの作成

- (1) インターネット／ホームページを使ったアクセス
- (2) データベースが取り扱う範囲は決定することになっているが、まずは電気製品／強制規格を含む。

6. 熟練度 (Proficiency) テスト

項目は参加国が決定するが、できれば電気試験／製品／計測器校正。

7. プログラム及びアクションプラン施行の継続性を保証するために、同じ参加者がこれからのセミナーにも出席することが強く推奨された。

8. アメリカのマルコム・ボルドリッジ賞などの褒賞制度の研究

9. 評価テクニックに関して、主要な私企業を参加させるために適切な手段をとる。

#### 施行メカニズム

提案を施行するために、下記の施行メカニズムが推奨された。このために JICA の支援が求められた。

1. 試験及びキャリブレーション施設の調査
2. オン・ザ・ジョブ・トレーニング
3. インターネット、ハイパーネット言語についての講演／セミナー
4. 特定の事項に関するセミナー・ワークショップ
5. 特定の事項に関するグループトレーニング
6. 試験活動のためのフォーラム（定期会合）
  - (1) 規格の解釈
  - (2) 試験方法の実施

さらに、試験活動を補足するための試験所認定についてのフォーラムも提案された。

第2回連携セミナー・ワークショップ概要報告

1. 期間：平成8年10月16日～10月18日
2. 場所：タイ、バンコック市：SIAM CITY HOTEL, 及びISTTC (TISI附属の試験所)
3. プログラム：工業標準の戦略について（添付1参照）
4. 参加者：  
インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ及びヴィエトナムよりセミナー講師を含む各3名（添付2参照）、日本側参加者7名（添付3参照）

5. 概要：

(1) セミナー

インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、及びヴィエトナムよりそれぞれの国の工業標準の戦略が発表されるとともに、日本からは、WTOに対する工業標準関連活動の透明性及びISOとの関連で、日本の工業標準化の戦略についての発表があり、参加各国の間で知識、情報の共有化が図られた。

今回、タイより工業標準のインターネットホームページにかかるプレゼンテーションがあり、今後、域内の工業標準に関するデータの情報交換の手段の一つとして有意義であった。

(2) ワークショップ（添付4参照）

今回のワークショップまでに各国の電気製品の内、ケーブル及びコード、蛍光灯ランプ等の4品目についての強制法規、規格、試験に関するデータを共通のフォーマットで共有し、次回ワークショップにおいて評価、検討する、また、情報を共有化する品目の範囲を今後拡大していくことで合意した。

タイより各国の試験の相互評価（PROFICIENCY TESTINGによる）について  
次回のワークショップの課題とするよう提案があった。

今後、各国の試験設備の情報交換を進め、将来的に試験設備の無い国が、  
設備を有する国に試験を代行してもらおうといった相互補完協力を模索して  
いくことで合意した。

TISI-JICA SEMINAR ON INDUSTRIAL STANDARDIZATION

添付. 1-1/3

16-18 OCTOBER 1996

THE SIAM CITY HOTEL, BANGKOK, THAILAND

-----

PROGRAMME

16 OCTOBER 1996

- 8.30 - 9.30 REGISTRATION (IN FRONT OF KAMOLRUEDI ROOM)
- 9.30 - 10.00 OPENING CEREMONY (KAMOLRUEDI ROOM)
- OPENING REMARKS BY MR. AKIRA YAMAZAKI,  
DEPUTY DIRECTOR OF JICA HEAD OFFICE
  - KEYNOTE ADDRESS BY MISS KANYA SINSAKUL,  
TISI SECRETARY GENERAL
- 10.00 - 10.20 COFFEE BREAK
- 10.20 - 12.00 SEMINAR (KAMOLRUEDI ROOM)
- STRATEGY FOR NATIONAL INDUSTRIAL  
STANDARDIZATION AND INDUSTRIAL  
DEVELOPEMENT IN THAILAND  
(THAILAND)
  - STRATEGY FOR NATIONAL INDUSTRIAL  
STANDARDIZATION IN INDONESIA  
(INDONESIA)
- 12.00 - 13.30 LUNCHEON (DUANGKAMOL ROOM)
- 13.30 - 15.00 SEMINAR (CONTINUED)
- STRATEGY FOR NATIONAL INDUSTRIAL  
STANDARDIZATION IN MALAYSIA  
(MALAYSIA)
  - STRATEGY FOR NATIONAL INDUSTRIAL  
STANDARDIZATION IN THE PHILIPPINES  
(PHILIPPINES)
- 15.00 - 15.20 COFFEE BREAK
- 15.20 - 16.30 SEMINAR (CONTINUED)
- STRATEGY FOR NATIONAL INDUSTRIAL  
STANDARDIZATION IN VIET NAM  
(VIET NAM)
- 18.00 - 20.00 WELCOME RECEPTION (DUANGKAMOL ROOM)

17 OCTOBER 1966

- 9.30 - 10.30 SEMINAR (CONTINUED)
- TRANSPARENCY FOR STANDARDIZATION  
ACTIVITIES FOR WTO  
(JAPAN)
- 10.30 - 10.50 COFFEE BREAK
- 10.50 - 12.30 SEMINAR (CONTINUED)
- PRESENTATION ON CERTIFICATION OF  
STANDARDS ACTIVITIES IN APEC  
(THE PHILIPPINES)
  - STRATEGY FOR NATIONAL INDUSTRIAL  
STANDARDIZATION IN JAPAN IN RELATION TO  
ISO  
(JAPAN)
- 12.30 - 14.00 LUNCHEON (ASIA CAFE)
- 14.00 - 15.00 SEMINAR (CONTINUED)
- LECTURE ON INTERNET HOME PAGE ; HYPER  
LANGUAGE  
(THAILAND)
- 15.00 - 15.30 COFFEE BREAK
- 15.30 - 16.30 SEMINAR (CONTINUED)
- ADDRESS FROM ISTTC/INTRODUCTION TO ISTTC  
(THAILAND)
- 17.00 MOVE TO THE NOVOTEL BANG NA HOTEL BY BUS

## 18 OCTOBER 1996 - WORKSHOP (AT ISTTC, BANGPOO)

8.30 DEPART THE NOVOTEL BANG NA HOTEL TO ISTTC

9.30 - 10.30 WORKSHOP

- DISCUSSION ON TEST AND INSPECTION IN ELECTRICAL FIELD

10.30 - 10.50 COFFEE BREAK

10.50 - 12.30 WORKSHOP (CONTINUED)

- DISCUSSION ON TEST AND INSPECTION IN ELECTRICAL FIELD (CONTINUED)
- DISCUSSION FOR FUTURE PLANS PROPOSAL FOR JOINT PROMOTION

12.30 - 13.30 LUNCHEON

13.30 - 14.30 - DISCUSSION FOR FUTURE PLANS FOR JOINT PROMOTION (CONTINUED)

14.30 - 15.30 DEMONSTRATION OF INTERNET HOME PAGE

15.30 - 15.50 COFFEE BREAK

15.50 - 17.30 TOUR OF ISTTC

17.30 - 17.45 CLOSING BY DIRECTOR OF ISTTC

18.00 DEPART ISTTC TO ROYAL DRAGON RESTURANT

19.00 - 21.00 FAREWELL DINNER

-----



| Country     | Name  | Section   |
|-------------|---|---|
| Indonesia   | 1. Mr. Tony Sinambela<br>2. Mr. Aris Munandar<br>3. Mr. Suprapt                             | Head of subdivision, Product Certificate for Multifarious Industries, MOIT<br>Electric Power Research Center, PLN<br>Secretariat of Standardization Council of Indonesia, DSN |
| Malaysia    | 1. Mrs. Saleha Abdul Jalil<br>2. Mrs. Maziah Binti Mukhtar<br>3. Mrs. Nur Fadhilah Muhammad | Manager, Scientific Standards Unit, SIRIM<br>Research Officer, Quality Assurance Service, SRIM<br>Research Officer, Electrotechnical Testing Unit SIRIM                       |
| Philippines | 1. Ms. Clarissa M. Oracion<br>2. Mr. Joselito C. Soler<br>3. Mr. Gerardo P. Panopio         | Chief, Standards Development, BPS<br>Chief, BPS Testing Center, BPS<br>Senior-Specialist, Trade-Industry Development, BPS   |
| Thailand    | 1. Mr. Surasak Asavadorndeja<br>2. Mr. Thawat Kitnop<br>3. Mr. Narat Rujirat                | Director, Standard Division 1, TISI<br>Engineer, Telecomasia Corporation Public<br>Standards Officer, ISTTC of TISI   |
| Vietnam     | 1. Mr. Nguyen Tri Long<br>2. Mr. Luong Van Phan<br>3. Mr. Nguyen Khac Tue                   | Deputy General Director, STAMEQ<br>Head, Electrical Standards Section, VSC, STAMEQ<br>Head, Electrical Testing Lab, Quality and Testing, STAMEQ                               |

| Country | Name               | Section   |
|---------|--------------------|---|
| Japan   | Mr. Kiyoshi Honma  | Director, Machinery Standards Division,<br>Standards Department, AIST, MITI                     |
|         | Mr. Ryuji Suzuki   | Project Manager, International Standards Division<br>Standards Department, AIST, MITI           |
|         | Mr. Masashi Nezu   | Information Technology, Electrical and Electronic<br>Standards Div. Standards Dept. AIST, MITI. |
|         | Mr. Akira Yamazaki | Deputy Director, Mining and Industry Cooperation<br>Department, JICA                            |
|         | Ms. Chizuko Abe    | Mining and Industry Cooperation Department<br>JICA  |
|         | Mr. Akira Kajita   | Manager, International Standardization<br>Cooperation Department, JSA                           |
|         | Mr. Eizo Asaka     | Senior Consultant Engineer, International<br>Standardization Cooperation Dept., JSA             |

工業標準化に関するTISI-JICAセミナーワークショップ

於TISI/ISTTC (タイ/バンコク)

1996年10月18日

議事録

1. データベースの試験的構築

(1) 製品

まず、下記の4製品が選ばれた。

製品の種類は、後に増やされることになっている。

- ①PVC被覆ケーブル及びフレキシブルコード
- ②蛍光灯用バラスト
- ③蛍光灯用スタータ
- ④蛍光灯ランプ (安全要求事項)

(2) フォーマット

Mr. J. C. Soler (BPS Testing Center 所長) 提案  
(添付) に基づいて、ISTTCによってフォーマットが完成され、各国  
は次回ワークショップまでにデータベースを作成する。

(3) 強制基準及び規格の英訳

データベースがカバーする関連国家基準及び規格は英訳されなければなら  
ず、それにかかる費用については、もしもそれら基準及び規格の作成国が  
負担できない場合、状況に応じて、JICAが負担する可能性もある。

作成国が英訳にかかる費用を負担することができず、その国におけるの翻  
訳さえも不可能であり、また、JICAがその費用を支払うことを決定し  
た時には、当該基準及び規格は日本において英訳される。

この場合、当該基準及び規格は、今年末までにJSAに送付されなければ  
ならない。

(4) データベースの内容

各国が作成したデータベースの内容は、今年末までに I S T T C によって集められ、J S A に送付される。J S A は、その送付された内容を、次回ワークショップまでに各国に配布する。

(5) データベースの評価

これら試験的に作成されたデータベースは、次回ワークショップにおいて評価され、審議される。カバーされる項目の幅は、今後拡張される。

2. 試験のインターラボ比較

これは、T I S I / I S T T C により、今後の J O I N T P R O - M O T I O N P R O G R A M の課題として提案された項目であり、本ワークショップ参加者により、これを次回ワークショップのトピックの一つとして取り上げることが同意されている。

(1) A P E C は、参加国の国家認証機関間の相互承認を促進してきている。相互承認のためには、それぞれの認証機関が I S O ガイド 2 5 に従って認定される必要があり、この I S O ガイド 2 5 は、認定を受けようとする機関に対し、プロフィシエンシー試験を行うことを要求している。

(2) 試験項目

1. (1) に掲げる 4 つの製品の中から選ばれる。

(3) 講義

次回のワークショップにおいて、日本が上記トピックに関する講義を行うことが提案された。

(4) 提案 (試験項目、サンプルの用意等)

次回ワークショップまでに、T I S I / I S T T C が準備し、J S A に送付

する。J S A は、次回ワークショップまでにその提案を参加者に配布する。

(J S A は、日本人専門家に、その提案についてコメントするよう求める。)

(5) 本項目は、次回ワークショップにおいて話し合われる。

### 3. 各国試験設備の相互補助協力

(1) データベース完成後、各国の試験設備について、それぞれの強い点、弱い点について話し合う。

(2) 上記話し合いで得た結果を利用して、例えば、ある国が、自国にない設備をもつ他国に、試験を代行してもらうこともできるようになる。他の協力形態も、今後模索することになっている。

添付. 4 - 4 / 4

COUNTRY: THAILAND

| PRODUCT                     | STANDARD NO.          | EQUIVALENT                | TEST REQUIREMENT           | TESTING CAPABILITY/<br>TESTING CENTER | REMARKS                          |
|-----------------------------|-----------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| EXAMPLE<br>ELECTRIC<br>IRON | TIS366 252S<br>(1995) | EQUIVALENT TO<br>IEC..... | 1.<br>2.<br>3.<br>4.<br>5. | ISTTC<br>1.<br>2.<br>3.<br>4.<br>5.   | .....<br>.....<br>.....<br>..... |

第3回連携セミナー・ワークショップ概要報告

1. 日時、場所（プログラムの詳細については添付1参照）

（1）ワークショップ：

日時：3月6日～3月7日午前中（半日）

場所：PSBランジ（PSBサイエンスパークビル内）

（2）セミナー：

日時：3月7日午後（半日）

場所：PSBシアトレット（PSBサイエンスパークビル内）

2. 参加者（参加者の氏名等の詳細は添付2参照）

（1）ワークショップ：

ASEAN各国より2名ずつ計10名、シンガポールより7名、日本より7名の合計24名が参加。

（2）セミナー

上記ワークショップ参加者に加えPSB職員、シンガポール産業界よりの自費参加者を含め合計約40名が参加

3. ワークショップの概要

（1）第1部

①電気分野における情報交換（データベース）、議長：フィリピン

- ・今回、各国から提出された電気試験関係データベースに関連して各国の国際統合化状況の報告がなされた。参加国全てが国際統合化を進めているが、フィリピンでは、未だに多くの企業が米国規格を採用して

いるため国際規格はあまり浸透していない。タイでは気候条件が異なり国際規格への整合化は難しい、 베트남では1980年頃迄ロシア規格を採用していたとの報告があった。

- ・ 次回ワークショップ迄に、製品として、エアコン、冷蔵庫、ラジオ及びその部品、ビデオ機器をデータベースに追加する。
- ・ 4月第3週まで上記のレビューと製品を追加したデータベースをフィリピンBPSに各国より送付し、それを纏めた後にISAに送付する。
- ・ インターネット利用の情報交換については、未だ時期尚早と思うがフィリピンBPSが各国の意見を今後のために集約する。

#### ②電気分野における試験所間比較、議長：タイ

- ・ タイからPVCケーブルを対象に試験所間比較試験を行ったらどうか、一般的に試験所間比較試験は試験所認定機関により行われるため、試験方法のアドバイザーは認定機関から探したらどうかとの提案があった。さらに、PVCケーブルにかかる試験終了後を含めた全体計画を考えるべきとの意見がシンガポールよりだされたが、日本、マレーシア等の、ASEAN各国の事情を考慮し、段階的に進めるという意見にASEAN各国が合意した。
- ・ 次回ワークショップに試験所測定結果の統計的分析処理に関する専門家を日本より講師として招聘する。
- ・ 当該処理方法を各国で統一した上で試験所間比較を行う。

#### ③試験所間での個人レベルでの協力、議長：フィリピン

- ・ フィリピンより、試験所の担当者リストを作成し、個人レベルでの協力関係を強化すべきとの提案があったが、対象範囲が広すぎる等の意見がでた。
- ・ 前記データベースが完成した後に、対象範囲を絞り再検討する。

### (2) 第2部；電気製品の試験結果の不確実性 (Uncertainty)、議長国：シンガポール



- ・シンガポールより、EMC等を念頭に置き試験所の試験結果に関する不確実性（計測機器に加え、人的エラー等によるものを含む）をテーマとして追加する様に提案があった。

本件については、現在ISO/IECガイドやEUでも議論が行われているものであり、検討が難しいとの意見があったが、各国の関心は高かった。

- ・次回ワークショップで適当な専門家を招聘し、講演してもらい各国が勉強する。

### （3）第3部；規格関係の協力、議長国：日本

- ・日本から、国際統合化に関する、ISO/IECガイドの改訂作業の進捗状況を説明、さらに、ASEAN諸国間における国際規格策定に当たっての協力の必要性を強調した。
- ・各国から、国際標準化活動への参加状況の説明があり、さらに、各国の気候条件等の違いにより、国際規格の採用の困難さ、国際規格と国家規格の相違を明確にすべき等のコメントがあった。また、統合化状況に新たなカテゴリーを設ける事は、混乱を招く恐れがあるとのコメントがあった（シンガポール、マレーシア等）。

## 4. セミナー概要

添付1のプログラムにより、シンガポールから同国の電気分野における適合性評価手続きの現状の説明、日本からは、電気用品取締法の現状及びPL法の導入（電気用品試験所；八木澤調査役）、今後の国際標準化活動に関するASEAN諸国間の協力（国際規格課；青木課長補佐）について講演があった。

## 5. 全般の印象

- （1）本セミナーの目的は、我が国からのプロジェクティブ技術協力（シンガポール：品質管理、タイ：電気試験、フィリピン：電気試験）の成果を基に、ASEAN諸国間の情報交換、成果移転を行うことである。昨年7月のフィリピン、10月のタイにおいては、現状を含めた情報交換を目的としたセミナーが

主であった。

- (2) 今回のシンガポールにおいては、各国からの意見を求めるためにワークショップに重点を置いた。また、シンガポールでの開催であり、PSBよりの参加が得られて全体的に盛り上がり各国から活発な意見の交換、議論がおこなわれたのが今回の成果であり、さらに、以前の2回と比較して、各国の自主的、積極的参加の姿勢がみられた。
- (3) 今後は、電気関係の試験所制度関連、標準化活動の2つを、本事業の柱として各国の自主的、積極的対応を盛り上げていく必要がある。

**JICA - PSB WORKSHOP & SEMINAR ON INDUSTRIAL STANDARDISATION****PROGRAMME****Day One - 6 March 1997**

|                 |   |
|-----------------|---|
| 0850 - 0900 hrs | Registration of delegates   |
| 0900 hrs        | Welcome Address<br>by Mr Hideaki Ito, Resident Representative of Japan International<br>Cooperation Agency(Singapore office)                      |
| 0910 - 1040 hrs | Session 1: Continuous topics on Electric Testing<br><b>1a) Information (Database) exchange in Electric field</b><br>(chaired by the Philippines)  |
| 1040 - 1100 hrs | Break for refreshment at Da Vinci Room  |
| 1100 - 1200 hrs | Continuation of Session 1<br><b>1b) Inter-laboratory testing trials in Electric field</b><br>(chaired by Thailand)                                |
| 1200 - 1330 hrs | Lunch at Da Vinci Room  |
| 1330 - 1500 hrs | Continuation of Session 1<br><b>1c) Personnel Cooperation among ASEAN countries in Electric<br/>field testing</b><br>(chaired by the Philippines) |
| 1500 - 1520 hrs | Break for refreshment at Da Vinci Room  |
| 1520 - 1620 hrs | Session 2: New Work Item (Future Plan):<br><b>Uncertainty of Measurement for testing of Electric Products</b><br>(chaired by Singapore)           |
| 1620 hrs        | End of Workshop for Day 1   |

**Day Two - 7 March 1997**

- 0900 - 1000 hrs      **Session 3: Discussion on standards related matters**  
(chaired by Japan)
- 1000 - 1020 hrs      **Break for refreshment at Da Vinci Room**
- 1020 - 1110 hrs      **Continuation of Session 3**
- 1110 - 1120 hrs      **Closing of Workshop**  
by Mr Masahiro Aoki,  
Deputy Director, International Standards Division, Standards  
Department, Agency of Industrial Science and Technology, Ministry  
of International Trade and Industry
- 1200 - 1315 hrs      **Lunch at Da Vinci Room**
- 1325 hrs              **Delegates to proceed to PSB Theatre**
- 1335 - 1345 hrs      **Opening Address**  
by Dr Steve Lai, General Manager for Standards and Technology,  
Singapore Productivity and Standards Board(PSB)
- 1345 - 1415 hrs      **International Trends in Product Testing and Certification**  
by Mr Chua Seng Guan, Deputy Director, Electrical Test Centre,  
PSB
- 1415 - 1505 hrs      **Japanese Product Liability Laws and Electric Appliance and  
Material Control Law**  
by Mr Terunaga Yagisawa, Acting Director, Administrative  
and Development Department, Japan Electrical Testing  
Laboratory(JET)
- 1505 - 1520 hrs      **Break for refreshment at Foyer, Basement 1**
- 1520 - 1550 hrs      **Prescribed Articles enforced by the Public Utilities Board of  
Singapore**  
by Mr Joseph Michael, Executive Engineer(Products), Inspectorate  
Division, Regulations Department, the Public Utilities Board of  
Singapore(PUB)
- 1550 - 1620 hrs      **Singapore's Consumer Product Safety Law and PSB's Quality  
Marking System for Electric Appliances**  
by Mr Michael Ong, Deputy Director, Consumer Product Safety  
Department, PSB
- 1620 - 1710 hrs      **Further Cooperation in International Standardisation Activities**  
by Mr Masahiro Aoki, Deputy Director of International Standards  
Division, Standards Department, Agency of Industrial Science and  
Technology, Ministry of International Trade and Industry, Japan

1710 - 1730 hrs      **Question and Answer Session**  
(chaired by Mr Lim Hui Din, Deputy Divisional Director, Standards  
Division, PSB)

1730 hrs              **End of Seminar**

シンガポールセミナー・ワークショップASEAN各国の参加者 添付. 2-1/2

| Country     | Name                                   | Designation           | Organization   |
|-------------|--|-----------------------|--|
| Indonesia   | Mr. Tony Tongam<br>Hasiholan Sinambela | Head                  | Sub-Division of Product<br>Certification for Multifarious<br>Industries, Center for Standards,<br>Ministry of Industry and Trade |
|             | Ms. Yommi Runza                        |                       | The Center for Standardization-<br>LIPI as Secretariat of DSN  |
| Malaysia    | Mr. Goh Tok Poie                       | Manager               | Electro-Technical Testing Unit,<br>SIRIM Berhad  |
|             | Mr. Iskahaarrudin Ahmad                | Officer               | Product Certification Unit<br>SIRIM Berhad   |
| Philippines | Mr. Clarissa M. Oracion                | Chief                 | Standards Development Division,<br>BPS   |
|             | Mr. Gerardo P. Panopio                 | Asst. Project Manager | BPS Testing Center, Head;<br>Electrical Testing Laboratory, BPS  |
| Singapore   | Mr. Peter Leong                        | Divisional Director   | Testing and Evaluation Div., PSB   |
|             | Ms. Cecilia Khoo                       | Director              | Center for Standardisation, PSB  |
|             | Mr. Chua Seng Guan                     | Deputy Director       | Electrical Testing Laboratory, PSB   |
|             | Mr. Michael Ong                        | Deputy Director       | Consumer Product Safety<br>Department, PSB   |
|             | Ms. Chen Yih Lin                       | Senior Officer        | Center for Standardisation, PSB  |
|             | Ms. Judy Wong                          | Senior Officer        | ditto  |
| Thailand    | Mr. Narat Rujirat                      | Standards Officer     | TISI Testing Center, TISI  |
|             | Mr. Sirichai Kunthamas                 | Standards Officer     | Standards Bureau 2, TISI   |
| Vietnam     | Mr. Dang Van Suu                       | Director              | Corporate Monitoring Department,<br>Electrical Engineering Expert,<br>STAMEQ   |
|             | Mr. Nguyen Khac Tue                    | Head                  | Electrical Testing Laboratory,<br>STAMEQ   |

シンガポールセミナー・ワークショップ日本側参加者 添付. 2-2/2

| Country | Name                  | Designation        | Organization  |
|---------|-----------------------|--------------------|---|
| Japan   | Mr. Masahiro Aoki     | Deputy Director    | International Standards Division<br>Standards Department, AIST,<br>MITI |
|         | Dr. Ryuji Suzuki      | Project Manager    | ditto   |
|         | Mr. Fumio Yamashita   | Deputy Director    | Mining and Industry Development<br>Cooperation Department, JICA         |
|         | Mr. Toru Obayashi     | Director           | Planning and International<br>Business Division, JET                    |
|         | Mr. Terunaga Yagisawa | Assistant Director | Administrative Planning &<br>Development Department, JET                |
|         | Mr. Akira Kajita      | Manager            | International Standardization<br>Cooperation Center, JSA                |
|         | Mr. Eizo Asaka        |                    | ditto   |

## 1-6. 事業の今後の実施方針

工業標準分野プロジェクト連携促進事業は、今後4～5年間を目途に実施されるが、この事業を構成する各活動の実施方針は次のとおり。

### (1) 連携促進委員会の開催

本事業の実施を技術的にサポートするための連携促進委員会を毎年、第2四半期に1回及び第4四半期に1回の計2回開催する。

### (2) 連携促進調査団の派遣

A S E A N各国の関係機関に対し本事業の実施方針を提示するとともに、先方の要望を聴取するため、関係各国に対し必要に応じ調査団を派遣する。

特にセミナー及びワークショップの開催国に対しては開催にかかる事前打ち合わせのため、2～3ヶ月前に調査団を派遣するものとする。

### (3) セミナー及びワークショップの開催

A S E A N各国の関係機関の情報の交換及び共有化を促進するため、セミナー及びワークショップを年2～3回開催することとし、基本的には第2四半期に1回、第4四半期に1回開催する。

ワークショップの対象分野については、当分の間A S E A N諸国として共通して関心の高い電気試験分野を対象とし、各国のニーズに従い工業標準分野の情報交換、インターラボテストの討議及び実地研修を行うものとする。



## 第2章 工業標準分野における国際化の動向

### 2-1. WTO/TBT協定

WTO (World Trade Organization) は、ウルグアイラウンドの成果である「世界の貿易が平等に行える新たなスキーム」を実施するため、すなわち多角的貿易交渉を実施する国際機関として1995年1月に発足された。我が国は、1994年12月に国会で承認を得てその発足と同時に加盟(WTO協定の批准)している。1996年11月現在において128国が加盟している。

WTO協定は、WTOを設立する協定及びその附属書から構成されており、そのうち貿易の技術的障害に関する協定(TBT協定)は、大きな非関税障壁になりうる規格や適合性評価が最近クローズアップされたことを受けて、東京ラウンドにおいて1979年に実質的合意に達したGATTスタンダードコードを改訂したものである。

本来、規格(強制規格を含む)そのものは貿易問題とは直接関連せず、産業発展のための技術的基盤の整備、安全、健康、環境保全等の目的をもって作成されるものである。しかし、現在では貿易・投資が進む中で、各国が自国の規格体系の整備・運用等を単に国内的観点のみで行えば、自由な貿易・投資に対して無視しえない非関税障壁になりうる。

こうした背景の中で、WTO/TBT協定は、人の健康や安全、安全保障の確保等の例外を除き、生産効率の改善や国際貿易の円滑化に資することを目的として各国が自国の規格や適合性評価システムを国際規格や適合性評価ガイドをベースに構築することを義務付けている。

ウルグアイ・ラウンドにおいては、受入国がWTO協定加盟国全てに拡大されるとともに、また、任意規格においてもその国際規格との整合性の確保、適合性評価システムの相互承認の推進が強く推奨されている。

このTBT協定の主なポイントは、

- 第2条：中央政府機関(Central Government Bodies)の強制規格(Technical Regulation)に関連する条項では、2.4において、国際規格を基礎と

として強制規格を確立することを義務づけ。

○第4条：任意規格 (Standards) の制定に関する条項では、4.1において、加盟国に対し、中央標準化機関 (Central Standard Bodies) の規格制定等に関する適正実施基準 (Code of Good Practice) の受入れ確保を義務づけ。

○第5条：中央政府機関による適合性評価に関する条項では、5.4において、加盟国が行う強制規格及び任意規格に対する適合性評価手続きについて、国際標準化機関 (International Standardizing Bodies) の定める指針 (Guides) 又は勧告 (Recommendations) を基礎として用いることを義務づけ。

○第6条：中央政府機関による適合性評価手続の結果の申入れ (Recognition) に関する条項では、6.1において、加盟国に対し、国際標準化機関の定める指針又は勧告に従い認定 (Accreditation) 等を受けた海外の認証機関 (Conformity Assessment Bodies) については、十分な技術的能力があると認め、可能なときはその適合性評価手続の結果の受け入れ確保を義務づけ。

また、加盟国間で、適合性評価手続の結果の相互承認 (Mutual Recognition) 交渉を行うことを奨励。

○附属書3：任意規格の制定専に関する「適性実施規準」では、標準化機関が規格制定の際に満たすべき手続等を規定。

- 1) 貿易の障害となるような規格制定を回避。
- 2) 国際規格を基礎とした任意規格の制定。
- 3) 国際規格制定への積極的参画。
- 4) 規格制定に関する作業計画を少なくとも6か月に1回公表。

また、ISO/IEC情報センターに作業計画の存在を通報。

- 5) 規格制定前には、少なくとも60日の意見受付期間を設置。

## 2-2. A P E C

### (1) 経緯

#### ①基準・認証分野に関する検討の開始

1993年初頭に豪が基準・認証について、規格の整合化、相互承認にA P E Cワイドで取り組むべきと提言。

これを受けて、1993年3月のA P E C第2回高級事務レベル会合(S O M)において、豪、N Z、日本などが基準・認証の整合化を行う意向を表明し、検討を開始。

#### ②基準・適合性小委員会(S C S C)の設置

1994年に設置された貿易投資委員会(C T I)のもと、基準・適合性非公式会合を開催し、貿易の円滑化を実現するうえで基準・認証分野の果たす役割の重要性を認識。

1994年11月、A P E C閣僚会議において、「A P E C基準・認証枠組み宣言」が採択され、以下のような協力活動を推進するため、C T Iのもとに基準・適合性非公式会合を格上げして、基準・適合性小委員会(S C S C)を設立。

- a) A P E Cメンバーの規格と国際規格との整合化の推進
- b) 地域専門家機関との連携強化
- c) 適合性評価の相互承認の促進
- d) 基準・認証制度の透明性の向上

1994年11月に採択された「ボゴール宣言(A P E C経済首脳の共通の決意の宣言)」では、2020年までに域内の自由で開かれた貿易・投資環境を実現するため、基準・認証の分野においても適切な措置を講ずるべきことを指摘。

### (2) 基準・適合性小委員会(S C S C)の95年の活動状況

#### ①会議開催の年月及び場所

(第 1 回) 95年 2月 福 岡

|         |     |     |        |
|---------|-----|-----|--------|
| (非公式会合) | 95年 | 4月  | シンガポール |
| (第2回)   | 95年 | 7月  | 札幌     |
| (非公式会合) | 95年 | 9月  | 香港     |
| (第3回)   | 95年 | 10月 | 東京     |

## ②検討の成果

### a) S C S C 中長期行動計画の策定

ボゴール宣言の実施に向けた「S C S C 中長期行動計画」を採択し、それが A P E C 大阪閣僚会議において「大阪行動指針」の一部として採択。

S C S C 中長期行動計画の柱は、次の4項目。

- ・国際規格への整合化
- ・適合性評価の相互承認
- ・基準・適合性関連技術インフラ整備
- ・基準・認証制度の透明性の向上

### b) 国際整合化に関するケーススタディの実施

A P E C メンバーの今後の整合化に資するため、4分野(電気製品:冷蔵庫・テレビ・エアコン、プラスチック製品:PVC-Uパイプ及び継手、ゴム製品:ゴム手袋・コンドーム、食品表示)において、メンバーの規格と対応する国際規格との差異とその存在の理由などについて調査。調査結果については、P A S C (太平洋標準会議)から専門家としての有益なコメントを得て、国際整合化の進め方に関する勧告を含むレポートを作成。

### c) 相互承認のパイロットプロジェクトへの取り組み開始

A P E C 域内の相互承認ネットワークの構築を目指し、パイロットプロジェクトとして食品表示と玩具の2分野を選択。食品表示分野ではモデル相互承認取極め、玩具分野では安全性についての情報交換取極めの策定に着手。

### d) 技術インフラ整備状況調査の実施

相互承認の基礎として必要となるAPECメンバーの技術力に関する相互の信頼を醸成するため、まず、域内の関連技術インフラ整備状況の調査を実施し、中間報告を策定。

e) 地域専門家機関との協力の枠組み設定

SCSCの活動と基準認証に関する地域専門家機関との活動の重複を避けるための協力の枠組みを設定。

(3) 基準・適合性小委員会(SCSC)の96年の活動状況

① 会議開催の年月及び場所

|       |     |     |     |
|-------|-----|-----|-----|
| (第1回) | 96年 | 2月  | マニラ |
| (第2回) | 96年 | 5月  | セブ島 |
| (第3回) | 96年 | 8月  | ダバオ |
| (第4回) | 96年 | 10月 | マニラ |

② 検討の概要

a) 個別行動計画(IAP)の作成

各メンバー毎にSCSC中長期計画を具体化するための行動計画を策定。具体的には、国際統合化、相互承認、技術インフラ整備、透明性に関して、

- ・ Collective Action(メンバーが共同で行う行動)
- ・ Member's contribution(Collective Actionに貢献する各メンバーの行動)
- ・ Special Action(上記2項目以外で貿易円滑化に資する各メンバーの行動)

からなる行動計画を作成。10月のSOMに提出し、11月の開催会議で報告する予定。

b) 国際規格への整合性の推進

4分野の整合性ケーススタディレポートをファイナライズし、配布。S

C S C 行動計画の中に含まれる各メンバーの統合化計画の優先分野を選定。ケーススタディを実施した4分野のうちP V C—Uパイプ及び継手を除く3分野を選定。また、追加優先分野として、日本からラジオ、機械、ビデオの3分野を提案し、了承。追加分野への提案は他メンバーからも行われ、検討されている。

A P E C 整合性ガイドを作成。A P E C メンバーが統合化を進めるに当たっての基本的考え方を、シンガポール、蒙、我が国がWGを構成し作成。8月のS C S Cで承認された。なお、本作業と同時並行的にI S O / I E C ガイド3及び21の改訂作業も実施し、A P E C / P A S C 提案として6月のI S O / T M B に提出した。

c) 相互承認の推進

- ・玩具の安全性の情報交換取極めを策定中
- ・食品の相互承認取極めを策定中
- ・相互承認(強制規格)の追加優先分野を選定中

d) 技術インフラ

2000年に向けてのS C S C 中期インフラ整備計画を策定中

e) 基準認証制度の透明性の調査の実施

メンバーの基準認証制度の透明性の調査を実施し、今年中に調査結果の評価及びpreliminary recommendationを作成。

f) P F P (Partners for Progress)の推進

基準・認証に係る研修を、他国の協力を得て実施。

### 第3章 ASEANにおける工業標準化の動向について

#### 3-1. 背景

国際貿易の成長が続き、さらにEuropean Union(EU), North American Free Trade Area(NAFTA), ASEAN Free Trade Area(AFTA)により例証される近年の地域経済組織の出現は、規格整合化と規格情報、適合評価スキームとそのサービス面における透明性の必要性をもたらしている。

ASEANでは、AFTAの目標は工業標準化を通してのみ実現可能であると理解している。つまり産業改良や世界的な競争力を付けること、及び経済組織の改良によってのみ実現すると認識している。

#### 3-2. ACCSQの活動

The ASEAN Consultative Committee for Standards and Quality (ACCSQ) は工業標準化を通じAFTAを実働させて行くことを目的としてASEAN傘下に設立された。

ACCSQはその役割を遂行すべく以下の目標を作成した。

- (1) ASEANにおける規格の整合化、すなわち技術面における障壁を減少させ、ASEAN間貿易を促進させるために国際規格に整合化させる。
- (2) 規格及び規制、適合評価、計量、試験所運営に関する規格、及びテクニカルインフォメーションへのASEANにおけるより便利なアクセスサービスを提供する。
- (3) 規格適合におけるASEANの施設、システム、及び人材の競争力、信頼性を高める。
- (4) ASEAN内における製品、及びサービスの受け入れの更なる促進を図るために産業、貿易、及び消費者の為に試験、校正、認証制度の相互受け入れ

の養成をはかる。

(5) 規格と品質における協力を通じASEANと他の経済グループ間との貿易と投資を促進させる。

これらの目標を達成するために、実行メカニズムが作業プログラムの方法によって作成され、またその計画はCEPT (Commodity Extra Preferential Treatment) がその機能を十分に発揮することにより1995年から2003年まで遂行される。主な計画政策は規格、試験、認証、及び技術規制によって引き起こされるASEAN間貿易のテクニカルバリアを減少させることにある。

### 3-3. ACCSQのTechnical Working Groups

これら特定の政策をまとめるためにACCSQの指導的な役割は3つのTWGにより行われる。国際規格への整合とテクニカル・インフォメーションはTWG1が取り扱う。整合化する規格はCEPTリストに基づく優先順位で行われている。規格整合化におけるAPECプロジェクトはまた現行活動のひとつであり、APEC、ASEAN間におけるその目的は互いに交差しないことが明らかにされている。最少必須要求が健康、安全、環境に関し技術規制で制定されることが薦められている。テクニカル・インフォメーションにおける作業プログラムはASEANメンバー諸国のアクセスの向上をその目的としている。

製品、品質システム双方における認証分野はTWG2が取り扱う。ハンドテスト、校正、及び試験所運営はTWG3の関与するところである。相互容認の調整はASEANの輸出市場に影響する再試験の高価格を減らすべく行われている。実用的な進行/ガイドラインは相互承認整備の下、ASEAN間における製品の移動の促進が不当な遅れのないように行われている。この整備手順についてはISO/IECにより設定された国際ガイドラインに基づき行われる。

他の支援メカニズムはASEAN間におけるテクニカル・インフォメーション



の交換、品質監査員数の拡大、品質システム認証、工場における品質活動の促進、及び品質実用性の強化、他の地域経済グループ間、あるいは地域、国際標準化組織との間における更なる相互協力を目指しその実現化のために開発された。

工業標準化は、有能なNSB (National Standards Body)、及びその人材なくしての成功は困難である。ACCISQはプログラムの実現化におけるこの影響は大であると認識している。また本作業プログラムにおける人材開発の包含が強く促されている。トレーニング機会は多数設けられなければならない、またトレーニングカリキュラムは指導方法論を作った最新のものでなければならない。

作業プログラムはACCISQの目的を全て網羅することが期待されており、ASEAN間における貿易上の処理コスト、及び時間を削減することを目的としている。その結果は、価値、量、及び製品の多様性に関するASEAN諸国間貿易の成長により評価される。

### 3-4. 国際、及び地域関係

貿易環境の変化の中、他の経済グループ及び地域/国際の標準化組織との更なる協力的な作業関係の確立が必要とされている。ACCISQは他の経済グループとの作業の重複を避け相互利益を付加することを目的としている。まず、EUとの規格、基準認証の分野での協力が、ISQAP (工業標準と品質保証のプログラム)の実行の形で始められた。1994年のそのプログラムの終了後、さらに、両地域の通商交易を強化することを目的として、その手段に、標準化、基準認証手続き、品質確立と実施を使用して、行う協力が確立された。

オーストラリア、ニュージーランドCER (Closer Economic Relations)とは標準と基準認証のMOUの確立についての協力を行っている。この協力では、アクションプランが作成され、それは、規格、試験場の強化と補完、相互認証及び基準認証テスト結果の相互受け入れ及び情報の交換に焦点が置かれている。

米国の標準及び、基準認証の調査団との討議は、両者の利益となる協力の可能性を見いだした。一方、米国とアジアの環境プログラムの協力では、ISO14000等の環境規格に焦点が当てられている。

中小、及び小企業でのTQM、及び品質面における工業産業界のトレーニングの分野では 日本-ASEAN Cooperation により日本と協力している。

ISO及びIECの活動への日常的な参加とさらにCodex Alimentarius 活動への参加が行われている。

APEC及び他の国際会議への定期的な参加については、ACCSEQの目的達成における基本概念であるために奨励されている。